

A group of children and an adult are standing outdoors, possibly in a schoolyard. They are all wearing face masks. The children are dressed in dark blue or black jackets and white caps. They are holding various papers and documents, some of which they appear to be reading or writing on. The adult, an older man with glasses, is wearing a grey blazer and a white mask, and is also holding a pinkish document. The background shows a stone wall and some greenery.

令和3年度 ふるさと学習のまとめ

2022年2月14日発行
令和3年度高尾小学校6年生

(早乙女岩について)

三村元範は、1567年ごろ、新見貞経が落ちのびたあとのゆずりは城の城主となりました。しかし、1575年正月に毛利勢の攻撃を受けて落城し、元範は城を脱け出して、早乙女岩の岩かげで、身を休めていたところ、毛利方に味方した多治部方の追手に見つかり、乱闘の末に、元範は最期をとげました。早乙女岩と呼ばれるその岩の上に、大正14年、地元の青年団は「樅城主三村元範公戦死之遺跡」と刻んだ高さ3mの記念碑を建てました。また、元範を見つけた多治部方の追手が石を指して、「あそこにいる！」と叫んだことから、このあたりを石指と言うようになったと伝えられ、現在も石指の小字が残っています。



(三村元範)

三村元範は、新見の領土を守るために、ゆずりは城をつくりました。三村元範は、織田と同盟を結んだため、毛利が攻めてきました。その時の武将は小早川で、2万の軍勢で攻めて来ました。対する三村氏の軍勢は3千でした。三村元範は、なぎなたの達人でした。三村元範の首は、弟、実親に送られました。



(感想)

早乙女岩や三村元範についてだけでなく、ゆずりは城やたまがき書状についても、学べたので良かったです。新見の歴史について知らない事がたくさんあったけど、講師の方が詳しく分かりやすく教えて下さって、たくさん知る事ができたので良かったです。

早乙女岩

三村元範が亡くなった所。三村元範が隠れているときにどこかの女の子がご飯を食べさせてくれた。元範を見つけた、多治部方の追手が石を指して「あそこにいる」とさげんだことから、このあたりは石指というようになった。大正14年に、地元の青年団が三村元範の記念碑を建てた。新見市の重要文化財に指定されている。



楿城

楿城の城主は三村元範。楿城の周りは20a、標高500mある。いろんな罨があった。(たてぼりやほりきりがある。)毛利氏に攻めこまれ、1575年楿城はついに落城した。一の丸、二の丸、三の丸、本の丸がある。本の丸に楿城がある。水がないと生活できないからわざわざくんでくる。生活はしていなかった。戦う時は水をくんできてためておく。



感想

昔の人たちのおかげで新見の歴史について学べたし、たまがき書状は世界記憶遺産にされるかもしれないことがわかった。

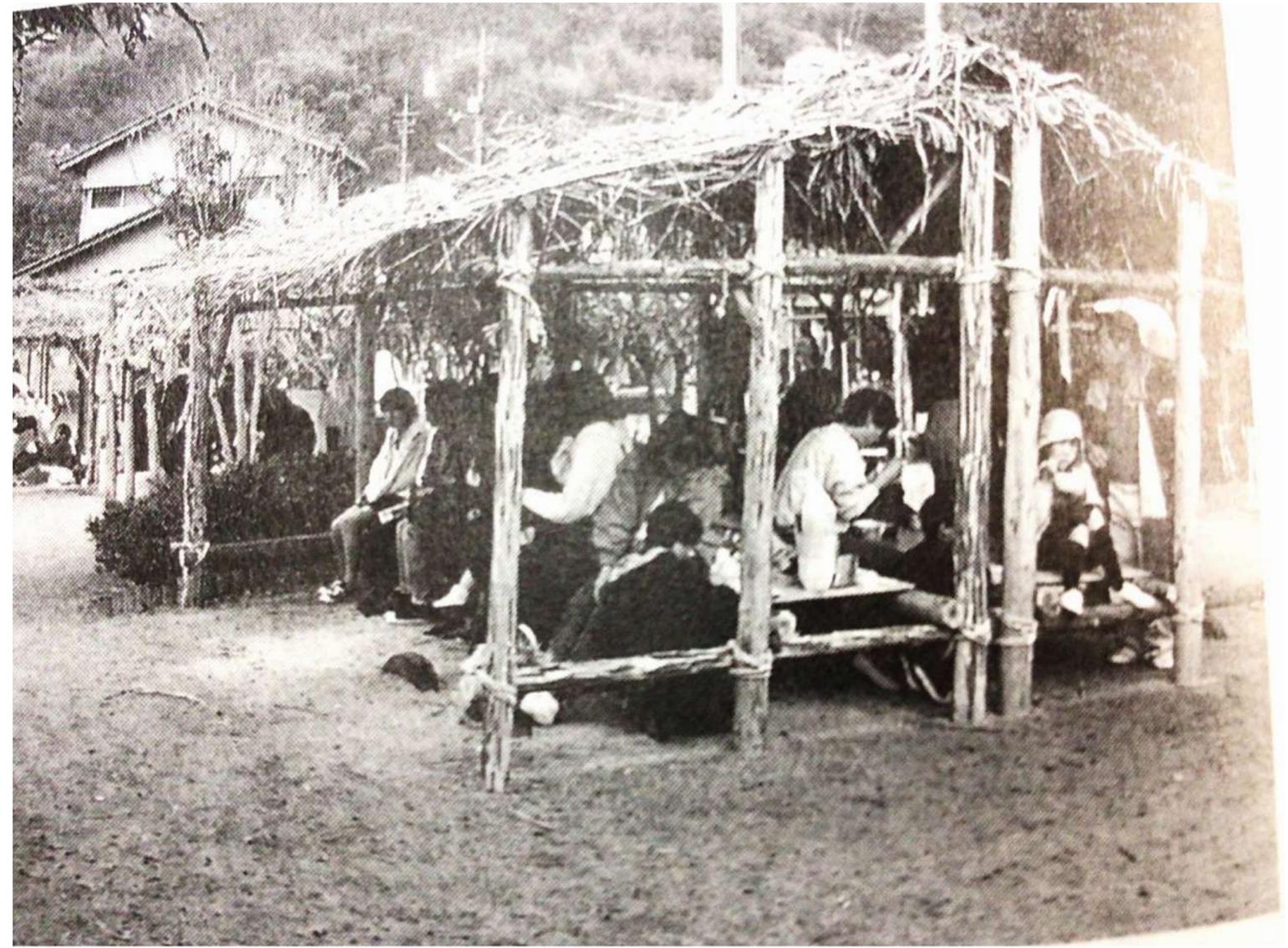
農民の生活

新見庄で一般的な農民の食べ物は粥でした。

中にはあわやひえが入っています。おかずは、猪、山鳥、魚を食べていました。

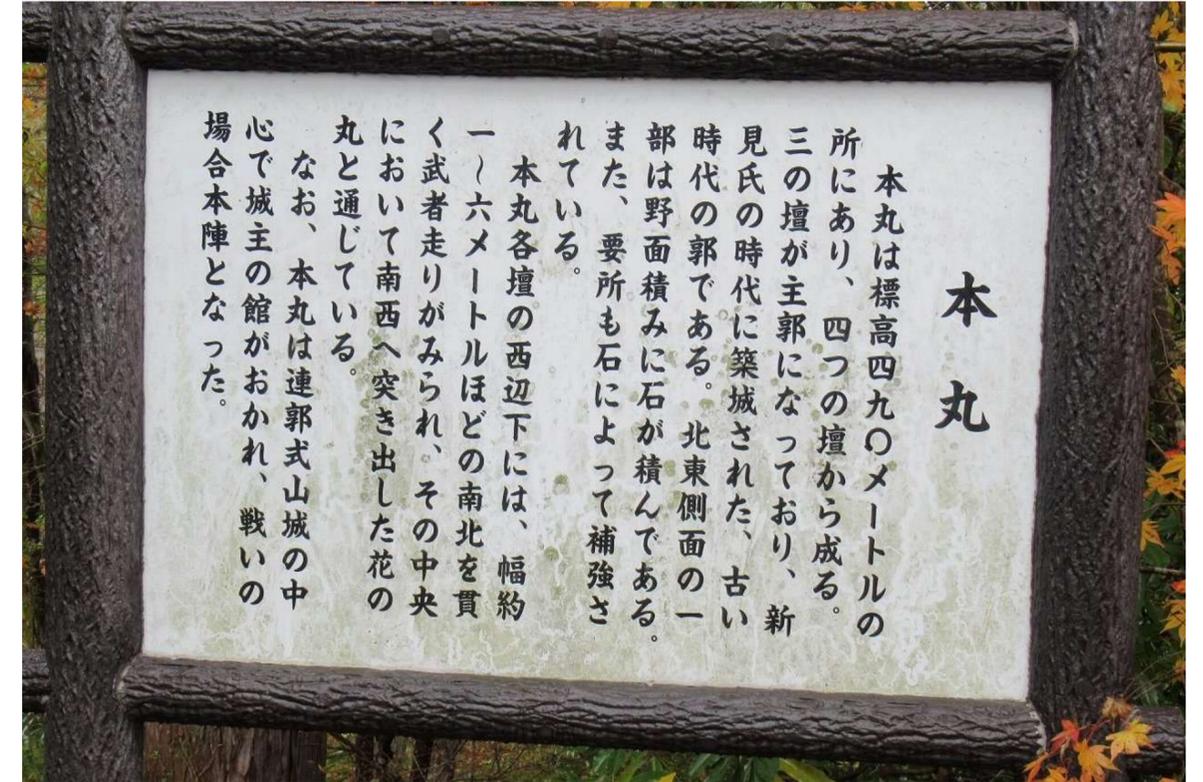
一方、武士は、朝と夕方の2回食べていました。

主な主食は、玄米でしたが、おかずは農民と同じでした。



三村元範

楳城城主の三村元範は、毛利氏の家来小早川軍に攻められ、城から逃げました。その後、早乙女岩に隠れたと言われています。その時の敵の追手は50人。元範を守ろうと「ここに元範は居ない。」と嘘をつきました。しかし、元範は、「自分はここにいる。」と名乗り、岩から出てきました。元範は、薙刀の達人でした。最後は敵を何人か倒して討ち死にしました。



感想

新見の歴史が知れたので良かったです。農民の生活の事や、いろいろなことが知れたので良かったです。

～早乙女岩・ゆずりは城～

○早乙女岩

早乙女岩と呼ばれるその岩の上に、大正14年地元の青年団は、「楨城主三村元範公戦死之遺跡」と刻んだ高さ3mの記念碑を建てました。また、元範を見つけた、多治部方の追手が、石を指して「あそこにいる！」と叫んだ事から、このあたりを石指と言うようになったと伝えられ、現在も石指の小字が、残っているそうです。

高尾小学校のグラウンドは、昔、田んぼだったそうです。早乙女岩は、三村元範が乱闘の末に、最期をとげました。



○ゆずりは城

新見氏は、多治部氏とともにこの地方の有力農民が、武装して勢力を伸ばした国人とも考えられ、新見氏は、主に地頭方を中心に活動しました。室町時代には、領家方の代官を兼ねていた時期があり、新見庄ができてから滅びるまで強い勢力を保ち続けました。昔は、山から山へ牛や馬などを使って歩いていました。水がないと生活出来ないから、わざわざ水をくんでいたと聞きました。



○感想

新見の歴史や、昔の知らない事を沢山学べたので、良かったです。他にも、たまがき書状・新見庄について知れたので、教えてくださったことを忘れないようにしたいです。

早乙女岩

三村元範は1567年ごろゆずりは城の城主になりました。しかし、毛利の攻撃を受けて落城し、元範は城を抜け出して高尾の岩かげで身を休めているとを殺されてしまいました。そして早乙女岩の上に、「樅城主三村元範交戦死之遺跡」と、刻んだ高さ3mの記念碑をたてました。

たまがき書状

新見庄のたまがきという女性が祐清が亡くなったから「祐清の遺品のうち、三品をいただけたならどんなに嬉しいことでしょう」と書いて東寺に送った手紙です。農村女性で字を書いたり、読んだりすることができるとはすごいことでした。今から約550年前で当時のたまがきは、20歳くらいだったそうです。たまがき書状も入っている「東寺百合文書」は、ユネスコの世界の記憶遺産に登録されました。



感想

早乙女岩や、たまがき書状のことが知れて良かったです。

たまがき書状

祐清の葬儀は西方の善成寺で行われた。たまがきさんは大変悲しんだ後持ち物の整理をして、その中で「三つの品を形見にください」と手紙を書いた。「白小神、紬の表、布子の三品をくれたらどんなに嬉しいことだろう」と書いた。たまがきさんは、農村女性で字を書いたり読んだりすることができたことを示す、珍しい文献である。東寺からお礼の品として、扇が送られている。たまがき書状は、たまがきさんが「祐清が亡くなった」と話を聞いて、たまがきさんが祐清さんの持ち物を片付けて居たら祐清の衣類を見て「ください」と書いたものである。

国司神社

国司神社ができたのは、元亀2年、国司神社は5人の神様がいて、その名前は、主祭神、大国主命、事代主命、小彦名命、田心姫の命というすごい神様がいます。高尾の物を守っている赤い鳥居はきつね神社。きつねは神社のお使いをしていた。

感想

たまがき書状のことと国司神社のことを知れて良かったです。たまがきさんは祐清を想っているのが良かったです。



昔の人の暮らしとたまがき書状

・昔の人の食べ物

昔の新見の食事は、かゆにあわ、ひえ、わらび、ぜんまいなどの山菜や、いも、木の实、きのこを混ぜた雑炊。

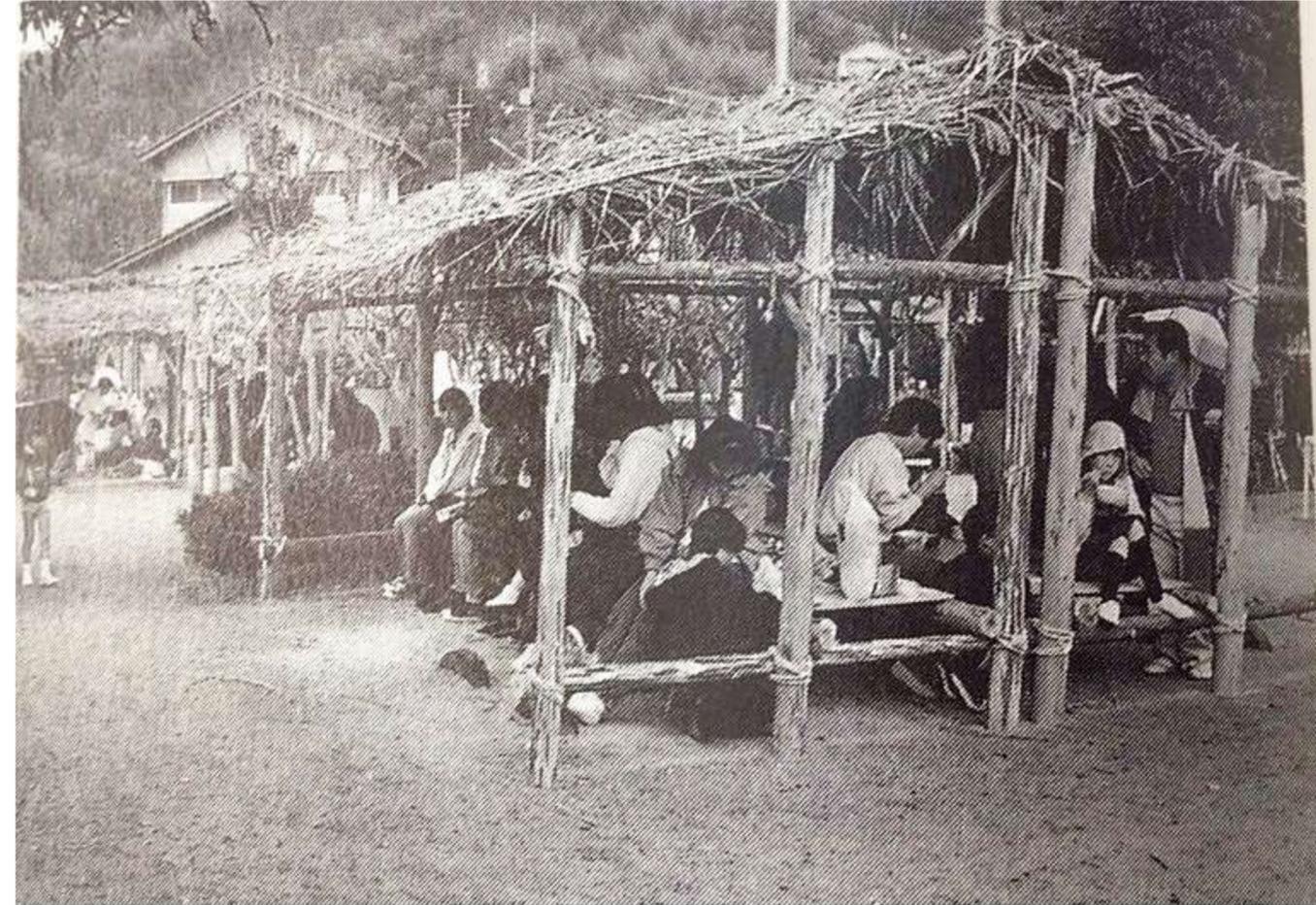
それに捕まえた猪や山鳥川で捕まえた魚を添えて食べていた。

・昔の人の住まい

小屋ぐらいの大きさで、壁もなく柱に屋根を乗せたもの

・昔の人の服装

農民と職人は、半袖の腰までの短いのに、腰みのはばきをつけ、草鞋を履いて仕事をしていた。



昔の人の暮らしとたまがき書状

・たまがき書状

たまがきさんは、農民にしては読み書きができた。そして、面倒見がよくとても優しい人だった。

そんなたまがきさんは、祐清さんの死後、祐清さんの形見として「白小袖、布子、紬の表が欲しい」と東寺に手紙を送った。これをたまがき書状と言う。

感想

昔の人はみんな貧しく、ろくな物も食べられなかったということを知った。

たまがき書状は、たまがきの儚く散った夢への深い悲しみがあるのを知った。



たまがき書状

たまがき書状の筆者、たまがきは今から約550年くらい前に、今でいう西方に住んでいました。たまがき書状は1463年に書かれました。江戸時代の終わりまで字を書ける農村女性がほとんどいなかったのので、たまがきさんは珍しかったのです。前の代官の安富智安という人が年貢をお寺へ納めず、細川という人に送っていたから、人々は困ってしまって、新見庄の人達はお坊さんなら大丈夫と思って派遣されたのが祐清という人です。「寛正3、1462年8月」のたまがき書状は、祐清さんが農民達に殺されて、「その祐清さんが着ていた衣類を私にしてくれないか」というたまがきさんの気持ちを書いてある手紙のことです。その気持ちはたまがきさんの愛情と、はかなく散った夢への深い悲しみが込められています。



馬頭観音

馬頭観音は天保13年に出来ました。梵名ハヤグリーヴァという仏様です。馬頭観音は当時の高尾のすごいお金持ちが建てたと言われていました。名前には馬とありますが、実際は牛と書いています。牛などが元気に育ってほしいという人がよくお参りに行っていたと言われていました。

感想

新見市には歴史的なものがたくさんあると分かりました。これからも、今まで大切にされ続けてきた歴史を大切にしたいです。



祐清、善成寺

武士の安富智安が農民の苦しい生活を考えず、年貢を細川や自分のものにして東寺へ納めていなかった。

農民が、東寺のお坊さんを代官にしてほしいと頼んだ。

→生活が苦しいことをわかってくれて、厳しく年貢を取り立てないと思った。

祐清が農民達に年貢を納めるよう強い態度を示した。

「豊岡を許すとみんな年貢を納めなくなるから。」と言って豊岡を処罰した。

→祐清が豊岡を処罰したことで、「安富智安の時と同じになるのではないか。」と農民達が言った。

祐清が処罰した安富智安の親類が、ひそかにあだうちを計画した。

善成寺は、殺された祐清さんの葬儀が行われたお寺。祐清さんの葬儀は手厚く行われた。



江原八幡神社

新見市西方にあり、新見庄のころは惣社八幡宮と呼ばれていた。
中世新見庄の時代に、農民が集まり、皆一味同心を誓って、境内で鐘をつき、
氣勢を掲げた。（土一揆）

宇佐八幡神社から神様を半分、分けてもらって、891年に江原八幡神社が建てられた。

この神社は、楨城主、松山藩、新見藩主が国土の安全や五穀豊穰などの守護神としてとても大切にしていた。

1687年に焼失したが、守護神として大切にしていたため、焼けてから一年後に松山城の城主によって再建された。

感想

江原八幡神社は、とても大切にされていて、焼けてから一年後に松山城の城主に再建されたことが分かりました。

これからも、新見の歴史を調べたいです。

